

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト／清水真子

第29回

春に寄せられる相談から

✿ 保育所・幼稚園の

受け入れを断られて

今年も新入学や進級、入園の季節を迎えました。毎年この時期には、主に食物アレルギーの対応でたくさん相談が寄せられます。「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(監修：文部科学省)や「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省)に沿った対応をしていたければ、子どもも保護者も困らなくて良いはずですが、まだまだそこではないのが現実です。食物アレルギーの重い症状に備えた自己注射「エピペン」を処方されているとただで保育所、幼稚園の受け入れを断られた子。食物アレルギーの症状を起す原因は、ピーナ

ツだけなのに、給食をまったく食べさせてもらえない小学生。給食の間は毎日、保護者が見守りに来るよう求める学校。やはりピーナツだけが重い症状を起すので、それまでは普通に給食を食べていたのに、転校してきた多品目除去の子に合わせた給食しか食べさせてもらえなくなり、理不尽に思って不登校になってしまった小学生。先生がアレルギー対応食のチェックをすることになっていたので確認を怠り、そのために誤って食べてしまい発症したのに、逆に先生に叱られてしまった子など。また「一切、アレルギーの対応はしない」と取り付く島もない都内の有名私立小学校もありました。自分だけみんなと違う扱いをされるだけでも大変な思いをしているの



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』(南江堂刊)。

に、食べられるものまで食べさせてもらえないつらさ、そんな子どもたちの気持ちに、思いを寄せてはもらえないのでしょうか。

✿ 「子どもたちのために」

どう思うを

先生たちにも事情はあると思います。学校は多くの課題を抱えている余裕がない、そもそも食物アレルギーのことをよく分らない、でも同じような状況の中でしっかりと対応している学校や園もたくさんあります。必要な対応をまとめた「ガイドライン」を生かしてほしい、「子どもたちのために、できることから」と思っていた方がいいのです。そんな学校や園を、「母の会」は応援していきたいと思っています。